



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3157 号 2016.7.31 発行

「いらぬ命なんてない」 障害者励ます家族 相模原殺傷、心の傷に

共同通信 2016年7月30日

相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で19人が刺殺され26人が負傷した事件を受け、障害のある人や家族は不安を抱えている。障害者を差別する植松聖容疑者（26）の言葉に傷つき、同じような事件がまた起きないかと心配する。親や支援団体は「いらぬ命なんてない」「胸を張って生きよう」と声をかけている。



伊藤大貴さん（左）と母み代さん。富士山の絵は大貴さんが描いた＝29日、埼玉県川越市

「ヒトラーみたいな恐ろしい考えが広がるのではないか」

埼玉県川越市に住む伊藤み代さん（63）はニュースを見ながら表情を曇らせた。2人で暮らす長男の大貴さん（31）は重度の知的障害を伴う自閉症だ。大貴さんは15歳で絵画に出会い、現在は週3回、NPO法人のアトリエで絵を描

いて収入を得ている。富士山の絵は口コミで評判となり、個展を開くほどの人気に。

み代さんは容疑者の主張ばかりが目されることに違和感を持ち、「障害者は邪魔者だと思う模倣犯が現れたらどうしよう」と不安がよぎる。

障害のある子供を持つ保護者たちと会ったが、誰も事件のことに触れようとしなかった。「ショックが大き過ぎて、まだ言葉にできない人が多い」。み代さんの老後も見据えて、近く大貴さんは知的障害者向けグループホームに入所する予定だが、事件の影響で施設のセキュリティが強化され、地域との交流が途絶えてほしくない。

み代さんは「障害があっても、一生懸命生きている。だから恥じることは何もないと大ちゃんには伝えたい」。

障害者本人もつらい思いにさせられた。東京都三鷹市の主婦、片木美穂さん（42）は事件当日、軽い知的障害のある長男（14）がニュースで容疑者の差別発言を見て、落ち込んだ表情に変わったことに気付いた。すぐに「いらぬ子なんていない。亡くなった人も含めて大切な命だよ」と励ました。

「迷惑を掛けているなら言ってね」。そう言う長男に「お母さんも家事を頼むことがあるし、迷惑も掛ける。お互いに助け合って生きていけばいい」と伝えると、「そうだね」と納得してくれた。それでもその後、ニュースは見せないようにしている。「ショックを受けた気持ちを伝えられない子もいるはず」。片木さんは傷つく人が増えないよう願っている。

「安心して、堂々と生きてください」。知的障害のある人の家族らでつくる「全国手をつなぐ育成会連合会」が事件後に公表した障害のある人へのメッセージには「救われた」「少し安心した」という声が寄せられているという。

同連合会の久保厚子会長（64）は「知的障害のある人はニュースを見て、社会全体から

差別的なことを言われている感覚になってしまうこともある」と話す。不安を少しでも和らげようと、ホームページにはふりがなを付けたメッセージも掲載し、読みやすいようにしている。

無念を忘れない やまゆり園で障害者ら献花 中日新聞 2016年7月30日

相模原市の障害者施設殺傷事件の現場となった「津久井やまゆり園」に、事件で衝撃を受けた障害者や福祉関係者が献花に訪れている。犠牲となった人たちへ「あなたたちの苦しさを忘れない」「福祉の仲間の力になれば」と、祈りをささげている。

「絶対あり得ない。自分を否定される気持ちで、悔しい」。車いすで献花台に来た東京都町田市の畑中朋則（とものり）さん（38）は、逮捕された植松聖（さとし）容疑者（26）が「障害者がいなくなればいいと思った」などと供述していることに憤った。

複数の障害があり、人工透析を受け、補聴器を使っている。事件で、助けも呼べない重度障害者が犠牲になったことを考えると、居ても立ってもいられなかった。「皆、なくてはならない存在でしょう」

「どんな花が良いか分からなかったから」と、スナック菓子を供えた。「あなたたちの苦しかった気持ちを絶対忘れないと誓いました」

脳の手術を受け車いすの千葉県市原市の三十代男性は、バスなどを使い約五時間かけて園まで来た。「障害者を軽んじるのは許せない。差別のない世界をつくってほしい」と願う。

遠方から訪ねてくる人もいる。高知県の知的障害者施設で働く男性（45）は「うちの利用者にも精神的にかなりダメージを受けた人がいる」と打ち明ける。「やまゆり園の職員は日々の業務に戻るのも難しいでしょう。障害者福祉の仲間なので、力添えできれば」と思いやった。

相模原殺傷「生命の尊厳の冒瀆」県社会福祉士会が会長声明

信濃毎日新聞 2016年7月30日

相模原市の障害者施設殺傷事件を受け、長野県社会福祉士会（三村仁志会長）は29日、事件は障害者への究極の人権侵害、虐待であり、生命の尊厳の冒瀆（ぼうとく）と非難し、「人間の尊厳を尊重するという意識を、社会の隅々まで浸透させ共有し、障がいがあっても差別されない共生社会の実現を目指す」とする会長声明を発表した。殺害された19人の氏名が遺族の要望で公表されないことには「障がい者に対する社会の差別、偏見に苦しむ家族の姿がある」と懸念した。

声明は、事件が間違った行動だと改めて発信する狙いで発表。元職員が事件を引き起こしたことに対し、労働環境や人材育成といった「日本の福祉現場の危機的な状況が露呈した」と強調し、正しい理念や倫理を学ぶ大切さを訴えた。

三村会長は取材に、19人の氏名を非公表にすることは、「障害がある人が平等でないことの表れではないか」と指摘。「容疑者1人の異常性で終わらせず、日本の福祉システム、社会全体の問題として向き合うべきだ」と強調した。

聴覚障害者を入店拒否 兵庫・尼崎の飲食店が抗議に謝罪 産経新聞 2016年7月30日

一般社団法人「滋賀県ろうあ協会」の会員7人が、兵庫県尼崎市の飲食店で全員が聴覚障害者であることを理由に入店を拒否されていたことが30日、分かった。協会は同店に抗議し、店側は「不適切だった」と謝罪した。

関係者によると、7人は5月9日、尼崎市内の飲食店にファクスで予約しようとしたところ、店側は「手話のできるスタッフはおらず、筆談での対応もしておりません」「通訳のできる方がおられない場合、ご予約をお取りすることができません」などと回答したとい

う。

7人から相談を受けた同協会が同27日、兵庫県聴覚障害者協会などを通じて同店に抗議。店側は「飲食は90分間の制限時間があり、筆談で対応すると時間内では難しい。聴覚障害者にどう接したらいいのか分からず、失礼にあたると思って断った」と釈明し、謝罪したという。

障害児や外国人指導の教員増へ 文科省が10年構想 日本経済新聞 2016年7月29日

文部科学省は29日、発達障害を抱える子供や、外国籍の子供らの指導に必要な教員の確保を目指す『次世代の学校』指導体制実現構想をまとめた。こうした子供に対応する教員を確実に配置するため、教職員定数を定める義務教育標準法を改正。2017年度以降、10年ほど先を見通し安定的な教員増を目指す。17年度の概算要求に必要な経費を盛り込む。

公立小中学校の教職員数は、子供の数に応じて決まる「基礎定数」と、いじめや不登校など様々な課題に対応するため配分する「加配定数」で決まっている。

障害に応じ別室で指導を受ける「通級指導」のほか、外国人で日本語指導の対象となる子供は増加傾向。担当する教員は加配定数で配分されてきたが、不足して必要な指導が受けられない子供もいた。このため文科省は担当教員を基礎定数に組み込み、必要な人員を確保することにした。

構想ではこのほか、20年度以降に導入される次期学習指導要領で強化される小学校英語や理科、体育などを専門の教員が教えられるよう、定員の充実も掲げた。土日に部活動に当たる教員の手当も引き上げるとしている。

子育てを頑張らないで！ 悩める母にアドバイス 嬉野市で勉強会



佐賀新聞 2016年07月30日
子育てのヒントをアドバイスした勉強会＝嬉野市中央公民館

■親の負担減、大切 県が9月から講座

子育てや子どもの発達への不安や悩みについての勉強会が21日、嬉野市中央公民館であった。自閉症や学習障害など発達障害のある子どもやその家族を支援するNPOそれいゆ（佐賀市）で子育て相談を担当している2人が講演し、子育てが思い通りいかずに悩む母親らにアドバイスを送った。

江口寧子事務局長は「子育てを頑張らない」と題して、親の負担感を減らす大切さを説いた。「子育ての大前提はお母さんの幸せ。親としてこうあらねばと思いつぎないで」などと語りかけた。

また発達臨床心理士の野間康美さんは、子どもに指示を出す際のこつを伝授。『静かにして』ではなく、『お絵かきか絵本で遊んで』と行動を具体的に指示して。やめてほしいことではなく、してほしいことに視点を変えて考えて」と助言した。

県の「子育てし大県（たいけん）“さが”プロジェクト」の一環で、子育てに悩む親の支援を目的に県障害福祉課が主催した。今回は導入と位置付け、さらに具体的な子育てのヒントを伝える全5回の講座を9月5日から来年1月30日まで開く。

3人の子を持つ参加者（32）＝嬉野市＝は「子どもの行動がよく分からず、言っても聞いてくれずに私は怒ってばかり。子どもの頑張りも認めて、なるべくほめてあげるようにしたいと思った」と話していた。講座の申し込みは8月19日まで。受講希望や問い合わせは同課、電話0952（25）7064。

無戸籍児、4割が就学援助対象 文科省調査

日本経済新聞 2016年7月29日

文部科学省は29日、何らかの事情で戸籍がない義務教育段階の子供（無戸籍児）が今年3月時点で191人おり、うち4割の77人は自治体が学用品代などを補助する就学援助の対象だったと発表した。2割強については教育委員会の担当者が「学力に課題がある」とみている。無戸籍児の経済的困窮や学習の遅れが改めて浮き彫りになった。

調査は今回で2回目。法務省が3月時点で把握した無戸籍児は191人で、昨年3月時点から49人増えた。120人は昨年に引き続き、無戸籍状態のままだった。

191人のうち、小学生相当は154人、中学生相当は37人。住んでいる141市区町村の教育委員会に調査したところ、1人は2年間にわたり未就学で、190人は小中学校に就学していた。

190人のうち7人には未就学の時期があり、最長で7年7カ月に及んだ。77人（40.5%）は就学援助の対象で、生活保護を受ける「要保護」は22人（11.6%）、市区町村が生活保護に近い困窮状態と認めた「準要保護」は55人（28.9%）だった。それぞれの全国平均（1.5%、13.9%）を大きく上回った。

45人（23.7%）は学力や学習状況に課題があるとされ、教委からは「家庭学習の習慣が身につけていない」「遅刻や欠席が多い」などの説明があった。45人が住む市区町村のうち、放課後や夏休みに補習をしている教委は半数程度にとどまり、それぞれの状況に応じ支援計画を作成したのは約2割だった。

保護者による虐待の疑いなど、生活上の課題を抱える子供も28人（14.7%）いた。

18歳少年を医療少年院送致 千葉の祖父母殺害事件

共同通信 2016年7月30日

千葉県君津市で昨年12月、60代夫婦が殺害された事件で、千葉家裁は30日までに、殺人容疑で家裁送致された孫の少年（18）を医療（第3種）少年院に送致する保護処分を決定した。「医師などの専門家が個別的な手厚い指導を行えば、再非行の恐れを減少させることが可能」として、検察官送致（逆送）を回避した。

決定理由で加藤学裁判長は「残虐で、執拗な攻撃を続けている点でも悪質。何ら落ち度のない祖父母を殺害するという少年の意思決定には、強い非難が値する」と述べた。

一方で「発達障害に由来する残虐行為への執着が非行に大きく影響した」とし、「少年の抱える問題は深刻。改善には粘り強く働き掛けることが必要で、少年院での処遇は相当長期が必要と認められる」と結論付けた。

決定などによると、当時高校2年生だった昨年12月23日朝、君津市の祖父母宅で、2人の頭部を刃物で刺したり、鈍器で殴ったりして殺害した。

入所者虐待の施設、受け入れ停止処分 安城市、6カ月間

中日新聞 2016年7月29日

愛知県安城市二本木新町の認知症対応型グループホーム「野のユリ」で職員2人が入所者をたたきなど虐待をしていた問題で、市は29日、介護保険法に基づき、8月1日から6カ月間の一部業務停止処分にした。

新規入所者の受け入れを停止するとともに、介護報酬の請求上限を規定の8割に制限する。処分期間は来年1月31日まで。

市やホームによると、今年5月ごろ、職員であるホーム施設長の次女（36）が入所者をたたいたり、暴言を吐いたりし、長男（41）も入所者に暴言を吐いた。6月中旬に別の職員からの通報を受けて市が調査し、ホーム側が認めた。次女はその日に解雇された。

ホームの担当者は「真摯（しんし）に受け止め、職員の指導方法を改善する」と話した。

「食事に下剤入れる」福祉施設に文書送付容疑で元職員の男を逮捕 兵庫県警

産経新聞 2016年7月30日

兵庫県姫路市の福祉施設に「食事に下剤を混入する」など書いた文書を送り、施設の業務を妨害したとして、兵庫県警姫路署は29日、威力業務妨害容疑で、同施設元職員の無職男（47）＝同市＝を逮捕した。容疑を認めているという。

逮捕容疑は今年11～12日、同市内の福祉施設に、食事に下剤を混入するなど書いた手紙を封書で送り、業務を妨害したとしている。同署によると、男は今年3～5月まで同施設に勤務。「辞めさせられ、不満に思っていた」などと供述しているという。

【埼玉】児童虐待 通告最多8387件 15年度県調査 東京新聞 2016年7月30日

年度	件数
2005	2135
06	2287
07	2425
08	2657
09	2665
2010	3449
11	4504
12	4769
13	5358
14	7028
15	8387

県内の児童相談所が昨年度に受け付けた児童虐待通告件数は八千三百八十七件で、児童虐待防止法が施行された二〇〇〇年度以降、最多を更新したことが県の調査で分かった。子どもが夫婦間のドメスティックバイオレンス（DV）を目撃することも児童虐待として認知され、通告が増えているためとみられる。（冨江直樹）

さいたま市を含む県内の児童相談所と支所の計八カ所に寄せられた通告件数を県こども安全課がまとめた。

同課によると、通告件数は前年より千三百五十九件、19・3%増加した。警察からの通告は前年比25・6%増の四千二百八十四件と大幅に伸び、全体の約半数を占めた。

警察からの通告のうち、約七割が心理的虐待で、言葉による脅しのほか、夫婦間のDV目撃も含まれる。同課は通告件数の増加について「子どもの目の前で行われた配偶者間のDVも虐待だと認知され、警察が細かく通報するようになったため。今後も周知していきたい」としている。

主な虐待者のうち四千二百件（50・1%）が実母、三千二百二十七件（38・5%）が実父だった。虐待の種類別では心理的虐待が四千四百九十五件（53・6%）で前年に続き最多。身体的虐待二千三十九件（24・3%）、保護の怠慢・拒否千七百七十一件（21・2%）、性的虐待八十二件（1%）と続いた。

虐待された児童を年齢別にみると、就学前が三千七百七十四件（44・9%）と半数近くを占めた。

通告後の対応では、一～数回の面接指導で改善がみられる「助言指導」が五千八百二十八件（69・5%）で前年から千四百二十二件増と大幅に増えた。長期間の定期的な「在宅指導」は三百八件（3・7%）、施設入所や里親委託など親元からの分離は二百七件（2・4%）だった。

通告件数は二千百三十五件だった二〇〇五年度以降、年々増加し、十年で約四倍に達した。

県内では今年一月、狭山市で三歳の女兒が約半年間、実母とその交際相手の男＝いずれも保護責任者遺棄致死罪で起訴＝から虐待を受け、死亡した事件があり、虐待疑いの通報が適切に生かされなかったことが判明。情報共有の徹底や積極的な介入の必要性が指摘されている。

こうした実態を受け、県は本年度、児童相談所の人員体制を強化。児童福祉司を五人増員するほか、警察官OBも二人増やす。

児童虐待の再発リスク 関係機関で共有を 県防止委

神戸新聞 2016年7月29日

2013、14年に兵庫県の加古川、姫路市で生後間もない男児と女児が父親に相次ぎ重傷を負わされた事件について、兵庫県児童虐待防止委員会（委員長・立木茂雄同志社大教授）は29日、検証結果報告書を井戸敏三知事に提出した。当初から虐待の再発リスクに対する認識が関係機関で食い違っていたにもかかわらず見過ごされたとして、再発防止策を求めた。

事件は13年4月、加古川市で20代の父親が生後15日の長男（その後死亡）を床にたたきつけ脳挫傷などの重傷を負わせたとして逮捕され、いったん起訴猶予処分になった。姫路市に転居後の14年12月にも、生後2カ月の次女の頭を強くつかんで重傷を負わせたとして逮捕され、最終的に長男への殺人未遂罪と次女への傷害罪で懲役9年の実刑が確定した。

報告書によると、長男を治療した県立こども病院は虐待が強く疑われるとして一時保護を求めたが、県中央こども家庭センター（児童相談所）は必要ないと判断。背景に、重度の後遺症がある乳児の受け入れ施設の確保が困難な実態もあった。

同委員会は「（関係機関の）見立ての違いを擦り合わせる仕組みがない」と指摘。見立てを一致させる手順の作成や、一致するまでの間の一時保護などを提言した。

一家の転居に伴う担当組織の引き継ぎで、同センターが姫路市に「再発の可能性が低い」と伝えていたことも判明。そのため在宅支援に重点が置かれ、虐待のサインを見逃したとして、移管時のマニュアル作成も求めた。（黒田勝俊）

【茨城】携帯の見守り機能で高齢者の安否を確認 独居の65歳以上に無償貸与

東京新聞 2016年7月30日



利用者に配布する見守り機能を搭載した携帯電話＝龍ヶ崎市で

龍ヶ崎市は、日々の歩数などのデータをメールで知らせる携帯電話の見守り機能を活用して、独り暮らしの高齢者の安否を日常的に確認する「みまもりメール事業」を十月から開始する。来月三日から利用希望者を募集する。市が、携帯電話による独り暮らしの高齢者の見守り活動に乗り出すのは全国初。

市は今月、市内の携帯電話販売店から、見守り用の携帯電話百台の寄贈を受けた。従来の見守り活動に加え、この携帯電話を使い、高齢者と離れて暮らす家族と連携しながら、きめ細かく高齢者の安否を確認しようというもの。

見守り機能は、高齢者の歩数や携帯電話の開閉数、内蔵電池の残量などのデータを日に一回、市地域包括支援センターと家族に携帯電話から自動的にメールを送信して知らせる。「歩数が激減した」「携帯電話を使っていない」「電池を充電していない」など異変があれば、市が家族と共に自宅に駆け付けるなどして、高齢者の安否確認を行う。

見守りの対象は、市内で独り暮らしをする六十五歳以上。携帯電話は無償で貸与するが、通信、通話料金は利用者が負担する。百人以上の申し込みがあれば抽選を行う。締め切りは九月十四日。

中山一生市長は「より細やかな見守りに活用できたらと考え、試験的に実施することにした。全国初の取り組みで、離れて暮らす高齢者や家族の不安を解消できるのではないかと話している。

申し込み、問い合わせは市高齢福祉グループ＝電0297（60）1529＝へ。（坂入基之）

車いす対応車両をカーシェアリング 池田市社協

産経新聞 2016年7月30日

大阪府池田市社会福祉協議会（社協）は高齢者や障害者が乗降しやすい車いす対応型福祉車両を貸し出す「カーシェアリング事業」を8月1日からスタート。社協によると、こうした取り組みは全国初という。

市内の公共施設などに駐車した車両を、近隣の高齢者、障害者らの家族やボランティアが利用できる。車両は車いす対応型のダイハツ・タントで、市保健福祉総合センターや市立病院、市消防本部、カルチャープラザなど計7カ所に駐車。料金は15分206円と距離1キロ16円の合算となる。

8月1日から順次利用を始めるが、事前に入会登録が必要。社協の担当者は「利用状況をみた上で、設置箇所の増加も検討したい」と話している。問い合わせは社協（電）072・751・0421。

道内最低賃金違反14% パート、アルバイトが大半



北海道新聞 2016年7月30日
北海道労働局は今年1～3月に、雇用実態を調査した道内594事業所のうち、14・6%に当たる87事業所が最低賃金764円（時給）を守っていないことを明らかにした。最低賃金を守らない事業所の割合（違反率）は、全国平均より1・3ポイント高かった。労働局は是正を勧告し、さかのぼって不足分を支払うよう指導した。

毎年実施する監督指導の結果を初めて公表した。調査の対象

は、過去に最低賃金法違反がある事業所や最低賃金水準で働く非正規社員が多い事業所。1～3月に賃金や労働時間に関する書類を調べた。

違反の割合が高かった業種は、社会福祉施設などの保健衛生業や旅館・飲食店などの接客娯楽業などだった。最低賃金未滿で雇用されていた労働者は223人で、このうち79・4%に当たる177人がパート、アルバイトだった。

違反した事業所が最低賃金未滿で雇用していた理由（複数回答）は「最低賃金額を知っていたが、賃金改定をしていなかった」が29・3%と最多。「適用される最低賃金額を知らなかった」が17・2%と続いた。

労働局によると、違反した事業所の中には「時給の算出方法を誤った」「人件費のコストが膨らむ」などと答えたところもあったという。労働局監督課は「労働者が不利益を被る許されない行為。雇用する上での最低限のルールとして最低賃金は守るべきだ」と指摘している。

ポケGO「聖地」で少年7人補導 警察が集中パトロール

朝日新聞 2016年7月30日
スマートフォン用ゲーム「ポケモンGO」の「聖地」として愛好者が殺到する名古屋市昭和区の鶴舞（つるま）公園で、愛知県警は29日夜～30日未明、集中パトロールをした。少年7人を補導し、駐車違反の車30台を摘発した。

県警の捜査員らは、ゲームのために公園に集まった若者たちに声をかけ、身分証の確認などをし、18歳未滿の7人を深夜徘徊（はいかい）で補導した。また、パトカーなどで周辺道路の駐車違反を取り締まった。

県警少年課によると、県内では配信開始から29日午前11時までの1週間で、ポケモ

ンGOをして深夜徘徊していた少年181人を補導した。うち中学生は29人、高校生は121人だった。

寝不足の中高生うつの恐れ 男子は8時間半以上睡眠を 共同通信 2016年7月30日
睡眠時間が短い中高生は、うつ病になるリスクが高まるとの調査結果を東京大や高知大のチームが29日付の国際科学誌に発表した。リスクを最小にするには、男子の場合8時間半以上の睡眠を取ることが望ましいとした。女子はどの睡眠時間でもうつや不安の症状を示す生徒が比較的多かったことから、推奨時間を示すにはさらなる検討が必要としている。

チームは高知県、三重県の中高生の男女を対象に平日の睡眠時間を調査。心配事があることでよく眠れないことがあるかどうかや、自信を失ったことがあったかどうかなど12項目の質問に答えてもらい、分析した。



潔癖性・視線恐怖… 「ロダンのココロ」の漫画家が新刊

朝日新聞 2016年7月30日

内田かずひろさん

哲学犬ロダンと飼い主一家の日常を描いた「ロダンのココロ」で知られる福岡市出身のマンガ家・内田かずひろさん(51)が、新刊「ロダンのココロ いろはのきもちクリニック」(日本文芸社)を出した。「悩みを抱える人に寄り添えたら」とマンガと自身の体験談をつづった。

内田さんは高校まで福岡で育ち、卒業後に絵本作家を志して上京。90年にマンガ家デビューした。96年から朝日新聞、週刊朝日などで約15年にわたり「ロダンのココロ」を連載した。

今回の著書は、見開きの右側に「ロダン」の四コママンガ、左側には、福岡での少年時代から自らに感じていた不安、23歳で心療内科に通った体験など自分の心をめぐるエピソードを紹介する形式。完全主義、潔癖性、他人の視線への恐怖――。

「こんな変なことで悩んでいるのは自分だけじゃないか。そう思っている、意外とそうじゃないんですね。特に若い方の気持ちが少しでも軽くなってくれればうれしいです」
巻末には、監修にあたった精神科医の海老澤佐知江さんとの一問一答も収録した。

「上から目線で語るのではなく、共感や寄り添うことが大事だと思います。だから個人的なことをさらけだしました」

福岡にはもう15年ほど戻っていない。12年にはうえやまとちさんら同郷の12人による「コミックふるさと 福岡」(マガジンハウス)に執筆。方言の魅力を4コママンガで紹介した。「自分の気持ちをいちばんうまく表現できるのは、やはり生まれ育った博多弁。だから上京して30年以上経った今も、博多弁で独り言をつぶやいています」(西正之)

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行